

平勢 隆郎 教授 略歴・著作目録

令和 2（2020）年 3 月

平勢 隆郎 教授 略歴

【経歴】

- 1979年3月 東京大学文学部（東洋史学）卒業
- 1981年3月 東京大学大学院人文科学研究科（東洋史学）修士課程修了
- 1997年9月 博士（文学）（東京大学）
- 1981年4月 鳥取大学教育学部助手
- 1984年4月 鳥取大学教育学部専任講師
- 1987年4月 鳥取大学教育学部助教授
- 1990年4月 九州大学文学部（東洋史学）助教授
- 1992年10月 東京大学東洋文化研究所助教授
- 1999年4月 東京大学東洋文化研究所教授
- 2000年4月 東京大学大学院情報学環学際情報学府教授
東京大学東洋文化研究所教授兼任
- 2003年4月 東京大学東洋文化研究所教授
- 2014年4月 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター担当・同
上

【主な学外活動】

- 1995年4月～2020年3月 中国出土資料学会理事

東洋文化研究所紀要 第177冊

1998年4月～2011年3月 史学会評議員

2003年4月～ 東方学会地区委員

2003年4月～2011年9月 東方学会評議員

2004年4月～2006年3月 中国出土資料学会会長

平勢 隆郎 教授 主要業績

【単著】

- 1987『謎の石造建築・岡益石堂』たたら書房（ふるさとブックレット・山陰の自然と文化7）[32頁]
- 1988『鳥取大学所蔵文化財整理簡報』鳥取大学（鳥取県立博物館・鳥取西高等学校・鳥取市・鳥取大学等の諸氏の協力あり）[21頁]
- 1988『春秋晋国侯馬盟書字体通覧——山西省出土文字資料』東京大学東洋文化研究所東洋学文献センター叢刊別集15 [280頁]
- 1995『新編史記東周年表——中国古代紀年の研究序章』東京大学東洋文化研究所報告・叢刊15輯，東京大学出版会 [670頁]
- 1996『中国古代紀年の研究——天文と暦の検討から』東京大学東洋文化研究所報告・叢刊17輯，汲古書院 [472頁]
- 1998『左伝の史料批判的研究』東京大学東洋文化研究所報告・紀要別冊，汲古書院 [705頁]
- 2000『『史記』二二〇〇年の虚実——年代矛盾の謎と隠された正統観』講談社 [268頁]
- 2000『中国古代の予言書』講談社現代新書1508 [246頁]
- 2001『よみがえる文字と呪術の帝国——古代殷周王朝の素顔』中央公論新社中公新書1593 [280頁]
- 2003『『春秋』と『左伝』——戦国の史書が語る「史実」、「正統」、国家領域

観』中央公論新社〔365頁〕

- 2004『亀の碑と正統——領域国家の正統主張と複数の東アジア冊封体制観』白帝社〔300頁〕
- 2005『中国の歴史2・都市国家から中華へ（殷周春秋戦国）』講談社〔446頁〕
- 2007『史記の「正統」』講談社学術文庫1853〔353頁〕（2000『『史記』二二〇〇年の虚実』を改稿）
- 2012『八紘とは何か』東京大学東洋文化研究所報告・紀要別冊，汲古書院〔755頁〕
- 2014『從城市国家到中華——殷周春秋戦国』広西師範大学出版社（2005『都市国家から中華へ』の中国語訳簡体字版・周潔訳・推薦序羅運環）〔490頁〕
- 2016『『仁』の原義と古代の数理——二十四史の「仁」評価「天理」観を基礎として』東京大学東洋文化研究所報告・紀要別冊，雄山閣〔556頁〕
- 2018『從城市国家到中華——殷周春秋戦国』台湾商務印書館（2005『都市国家から中華へ』の中国語訳繁体字版・李彦樺訳・高上雯導読）〔490頁〕

【共著等】

- 1982『山陰地方の食生活と風俗の特性に関する研究』鳥取大学昭和56年度特定研究費教育学部研究報告書（石川行弘・大塚讓・宮川正美・今石元久・中山明慶・錦織勤との共著）
- 1985『大熊段遺跡G区発掘調査報告書』鳥取大学（豊島吉則序文。本文執筆）
- 1987『山陰地方の地域産業振興に関する基礎的研究』鳥取大学昭和61年度特定研究費教育学部研究報告書（錦織勤・市南文一・宮川正美・石川行弘・大塚讓・中野恵文との共著、「因幡古代の石造技術」担当）
- 1988『大山をとりまく自然環境と地域文化に関する総合的研究』鳥取大学昭和62年度教育研究学内特別経費報告書（錦織勤・野津龍・中山明慶・豊島

- 吉則・清水寛厚・前田誠司・鶴崎展巨・森川幾太郎・和泉沢正隆との共著。「淀江町出土弥生土器の線刻羽人に類似する中国西南地区の『銅鼓』所刻羽人について」担当)
- 1996『中国・南越王の至宝』毎日新聞社（展覧図録。「南越王墓出土の文字史料」担当)
- 1998『世界の歴史2・中華文明の誕生』中央公論社（尾形勇と共著。新石器時代～戦国時代を担当)
- 1998『世界各国史・中国史』山川出版社（新石器時代～戦国時代を担当)
- 1998『漆で描かれた神秘の世界』トヨタ財団・東京国立博物館編（展覧図録。「竹簡の积文と解説」担当)
- 2000『世界美術大全集東洋編1・先史殷周』小学館（「文字の発生と展開」担当)
- 2000『世界四大文明中国文明展』NHK・NHK プロモーション（展覧図録。監修およびコラム「殷周王朝の時代」担当)
- 2000『中国国宝展』東京国立博物館・朝日新聞社（展覧図録。「鄂君啓節」积文・現代語訳担当)
- 2002『歴史を問う2・時間と歴史』岩波書店（月本昭男他編。「占い、予言、そして「歴史」」・「読書案内」担当)
- 2002『漫画版世界の歴史』3・4集英社（監修担当)
- 2003『世界歴史大系中国史1——先史～後漢』山川出版社（松丸道雄主編、西江清高、竹内康浩、平勢隆郎、太田幸男、鶴間和幸と共著。「春秋」「戦国」担当)
- 2005『争覇春秋戦国』学習研究社（歴史群像シリーズ78。巻頭「春秋戦国時代の変遷・新石器時代の文化地域と春秋の大国・戦国時代の“合従”と“連衡”」・「戦国各国の正統主張と世界観——史料の成立事情を踏まえて」担当)

- 2005『関野貞アジア踏査』東京大学総合研究博物館・東京大学出版会（藤井恵介・早乙女雅博・角田真弓・西秋良宏編。「関野貞の亀趺碑研究」担当）
- 2005『我国伝統中国学の独自性を発信するためのシステム開発』平成13年度～平成16年度化学研究費補助金研究成果報告書（研究代表。岩井茂樹他分担執筆）
- 2006『トロンによる多漢字利用システムの構築』平成14年度～平成17年度化学研究費補助金研究成果報告書（研究代表坂村健、尾崎文昭・大木康・越塚登・鶴坂智則・西村健とともに研究分担）
- 2007『戦前の学際的アジア研究調査により記録された画像資料に関する系統的研究』平成17年度～平成18年度化学研究費補助金研究成果報告書（研究代表者）
- 2009『漫画版世界の歴史2——三国志と唐の反映』集英社（監修担当。2002年版を文庫化し改編して新しい解説を付す）
- 2009『中華文明の誕生』中央公論新社中公文庫1762（尾形勇と共著。1998年版を文庫化し、増補改編）
- 2010『世界史史料3』歴史学研究会編、岩波書店（東アジア・内陸アジア・東南アジアI, 10世紀まで、第一章「中国古代・殷周秦漢」の26項目を担当）[4-45頁]
- 2012『関野貞大陸調査と現在』東京大学東洋文化研究所・人間文化研究機構「日本関連在外資料調査研究事業」の下のサブプロジェクト「近代日本文化財保護政策関係在外資料の調査と研究」報告書（塩沢裕仁と共編）
- 2013『あらすじとイラストでわかる・秦の始皇帝』宝島社別冊宝島2033号（監修を担当。「監修者の言葉」に示したように、大宮権平『中華民国歴史地図』中文館書店、1935年を活用し、東の函谷関に言及）
- 2013『あらすじとイラストでわかる・秦の始皇帝』宝島社宝島SUGOI文庫（2013年版を文庫化）

- 2014 『東方文化学院舊藏建築写真目録』 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター叢刊 17 (塩沢裕仁・関紀子・野久保雅嗣との共編)
- 2015 『東京国立博物館蔵竹島卓一旧蔵「中国史跡写真」目録』 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター叢刊 18 (田良島哲・三輪静との共編)
- 2015 『中国の歴史・東アジアの周縁から考える』 濱下武志との共編 (「漢字世界の拡大と“中華”意識」[2-28 頁]・「東アジアの亀趺碑」[194-206 頁])
有碑閣アルマ
- 2017 『東洋文化研究所蔵山本照像館撮影中国史跡写真目録』 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター叢刊 24 (宇都宮美都・野久保雅嗣との共編)
- 2018 『東方文化学院(東京研究所)研究の風景』 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター叢刊 26 (野久保雅嗣との共編)

【論文等】

- 1981 「楚王と県君」『史学雑誌』 90-2 [36-56 頁]
- 1981 「楚曆小考——対《楚月名初探》的管見」中国『中山大学学报・哲学社会科学版』 81-2 総 79 期 [107-111 頁]
- 1982 「春秋晋国世族とその管領邑」『鳥取大学教育学部研究報告』 33 [35-61 頁]
- 1983 「春秋晋国世族とその管領邑——続」『鳥取大学教育学部研究報告』 34 [31-49 頁]
- 1983 「侯馬盟書について」『書と書論』 1 [12-30 頁]
- 1984 The Unnoted Characteristics of “Allance Pacts” Unearthed at Hou-ma, *Proceedings of the Thirty-first International Congress of Human Sciences in Asia*

- 1984 「中国における原始文字の発生」『書と書論』3 [21-32頁]
- 1984 「雲南出土金印・楚国の墳丘墓」『日本海文化を考える会報』7 [1-9頁]
- 1985 「中国における原始文字の発生——補足と訂正」『書と書論』4 [42-43頁]
- 1985 「趙孟とその集団成員の「室」——兼ねて侯馬盟書を検討する」『東洋文化研究所紀要』98 [1-38頁]
- 1985 「岡益石堂の設計・建築基準単位」『鳥取大学教育学部研究報告』36-2 [103-124頁]
- 1986 「「濃山古墳群」とその環境——航空写真による鳥取大学構内古墳群の予察的研究」『鳥取大学教育学部研究報告』37-1 [25-50頁]
- 1986 「金文入門Ⅰ」『書と書論』6 [21-29頁]
- 1987 「『左伝』昭公十三年「靈王遷許胡沈道房申於荆焉」をめぐる——対楚従属国の遷徙問題」『東洋史研究』46-3 [463-482頁]
- 1989 「鳥取大学構内出土の遺物」『鳥取大学教育学部研究報告』40-2 [81-138頁]
- 1989 「郷土がはぐくんだ文化人」鳥取市中央公民館資料（1988『鳥取大学所蔵文化財整理簡報』を基に講演）[1-10頁]
- 1990 「編鐘の製作過程と設計理念」『日本音響学会・音楽音響研究会資料』M A 90-12 [5-14頁]
- 1991 「『侯馬盟書』「」・「」の字積とその関連問題——「趙「稷」・「范」氏」なる字積による時期決定の検討を基礎として」『史淵』128 [45-76頁]
- 1991 「秦の始皇帝による文字の統一について」博物館等建設推進九州会議『文明のクロスロード・Museum Kyushu』38 [3-8,47頁]
- 1992 「今本『竹書紀年』の性格」『九州大学東洋史論集』20 [45-68頁]
- 1992 「戦国紀年再構成に関する試論——君主在位の称元法からする古本『竹書

- 紀年』の再評価』『史学雑誌』101-8 [1-33 頁]
- 1992 「曾侯乙編鐘の歴史的意義」東京国立博物館編・日中国交正常化20周年
紀年特別展図録『曾侯乙墓』日本経済新聞社 [46-49 頁]、他に竹簡解説
(報告書の車関係解説を修正) [164-165 頁]
- 1992 「編鐘的設計與尺寸以及三分損益法」湖北省博物館・アメリカカリフォル
ニア大学サンディエゴ校・湖北省對外文化交流協會編『曾侯乙墓編鐘研
究』(他に英語版) [232-262 頁]
- 1993 「日本近世の亀趺碑——中国および朝鮮半島の歴代亀趺碑との比較を通し
て」『東洋文化研究所紀要』121 [1-85 頁]
- 1993 「日本近世の亀趺碑——中国および朝鮮半島の歴代亀趺碑との比較を通し
て・続」『東洋文化研究所紀要』122 [75-99 頁]
- 1993 「中国古代の皇帝と暦」博物館等建設推進九州会議『文明のクロスロ
ード・Museum Kyushu』45 [9-16 頁]
- 1993 「戦国時代徐州の争奪——滅宋・滅越問題を中心として」川勝守編『東ア
ジアにおける生産と流通の歴史社会学的研究』[24-54 頁]
- 1994 「戦国紀年再構成に関する試論——続」『東洋文化研究所紀要』123 [1-84
頁]
- 1994 「度量衡の統一とは何か——暦法・称元法との関わりを手がかりに・他」
樋口隆康監修世田谷美術館・日本放送協会・NHK プロモーション編『秦
の始皇帝とその時代展図録』[153-157,183-185,89,123,199-203 頁]
- 1994 「古銭(中国)」青柳正規・西野嘉章編『東アジアの形態世界』東京大学
出版会 [93-94 頁]
- 1994 「西周紀年に関する試論」『中国史学』4 [121-137 頁]
- 1995 「中国古代の暦における水と火」江上波夫先生米寿記念論集『文明学原
論』[321-338 頁]
- 1995 「春秋戦国時代楚国領域の拡大について」『日中文化研究』7 [110-118 頁]

- 1997 「試論西周紀年」北京師範大学国学研究所編『武王克殷之年研究』北京師範大学出版社 [675-683 頁]
- 1998 「越の正統と『史記』」『史料批判研究』1 [13-46 頁]
- 1998 「殷周時代の王と諸侯」岩波講座『世界歴史』3『中華の形成と東方世界』岩波書店 [153-178 頁]
- 1999 「關於我近年對古代紀年的研究」『古代文明研究通訊』總3 [10-16 頁]
- 1999 「戦国中期から漢武帝にいたるまでの暦」『史料批判研究』3 [52-186 頁]
- 1999 「戦国時代六国文字における“𠄎”等の略化について」『中国古代の文字と文化』汲古書院 [311-318 頁]
- 1999 「日本对中国楚史的研究」殷崇浩『修静齋文集』武漢水利電力大学出版社(殷崇浩と共同執筆) [115-125, 266 頁]
- 1999 「パソコンで古代史料を読み解く」東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター報『明日の東洋学』2 [2-3 頁] (再録 2008 東京大学東洋文化研究所『アジア学の明日にむけて』白峰社 [260-265 頁])
- 2000 「周家臺三〇号墓木牘に記された“陳勝”暦日について」『中国出土資料研究』4 [51-65 頁]
- 2000 「戦国中期より遡上した暦と『春秋』三傳」『史料批判研究』4 [134-276 頁]
- 2000 「克殷の年代について」『史料批判研究』5 [169-213 頁]
- 2000 「戦国称王と君主号」西嶋定生博士追悼論文集編集編『東アジア史の展開と日本』山川出版社 [111-123 頁]
- 2001 The Ch'u Bamboo-Slip T'ai-i sheng shui from Kuo-tien Considered in Light of the Emerging Debate about T'ai-sui, *ACTA Asiatica* 80 [pp.17-26]
- 2001 「序説」『東洋文化』81 (編集責任) [1-21 頁]
- 2001 「『周禮』の構成と成書国」『東洋文化』81 [181-212 頁]
- 2001 「『周禮』の内容分類(部分)」『東洋文化』81 [213-229 頁]

- 2001 「暦と稱元法について」松丸道雄他編『殷周秦漢時代史の基本問題』汲古書院 [137-158 頁]
- 2001 「小特集“中国古代の暦”序」『中国——社會と文化』（小特集編集責任）
- 2001 「観象受時から四分暦へ」『中国——社會と文化』 [205-223 頁]
- 2002 「古代文字のメッセージ——中国古代の虚実」『国文学』学燈社 [6-12 頁]
- 2002 「中国古代正統的系譜」『第一回中国史学国際会議研究報告集・中国の歴史世界——統合のシステムと多元的發展』 [143-169 頁]
- 2003 「数の秩序と九・六・八」『考古学ジャーナル』 500 [6-11 頁]
- 2003 「東亜冊封体制與龜趺碑」高明士主編『東亜文化圏の形成與發展——政治法制篇』国立台湾大学歴史学系 [17-43 頁]
- 2004 「戦国諸国家의 논한 夏殷周三代」（韓国）『中国史研究』 30, 翻訳：李守徳（東亜大）
- 2004 「『日書』に見える楚の天方位について」『史料批判研究』 6 [72-81 頁]
- 2004 「王莽時期、木星位置に関する劉歆説の復元とその関連問題」『日本秦漢学会会報』 5 [164-192 頁]
- 2004 「私の小倉塾」『响沫集』 11 [109-118 頁]
- 2005 「戦国時代における天下の中の地域的特徴」『早稲田大学長江流域文化研究所年報』 3 [109-034 頁]
- 2005 「東アジアにおける律令施行域と冊封關係——龜趺碑などを題材として」『九州大学東洋史論集』（2004『国際シンポジウム交流と変容』九州大学 [26-28 頁]）
- 2005 「中国古代の暦について」『日本曆学会』 12 [2-11 頁]
- 2005 「戦國時期的觀念語之共通性與多様性——從所謂的平勢説談起，重論戰國時期的觀念語之共通性與多様性——」台湾大学東亞文明研究中心主催，台湾大学「觀念字解読與思想史探索」に提出 [1-19 頁]
- 2006 「日食をめぐる興味深い問題」『史学雑誌』 115-3 コラム歴史の風（後単

行本化, 史学会編『歴史の風』刀水書房 2007) [35-37 頁]

- 2006 「古川麒一郎先生、古代の天文を語る」『史料批判研究』7 (対談。聞き手として執筆) [35-94 頁]
- 2007 「中国戦国時代の国家領域と山林藪沢論」松井健責任編集『自然の資源化』弘文堂 [27-82 頁] (『史料批判研究』8 [107-111 頁] に一部内容紹介)
- 2006 「夏王朝從“祖形”逐漸擴大的過程」上海市社会科学界聯合会『學術月刊』総 440 [145-149 頁]
- 2007 「戦国時代の天下與其下の中國、夏等特別領域」『東亞歴史的天下與中國概念』[53-91 頁]
- 2007 「大国・小国の関係と漢字伝播」韓昇主編『古代中国：社会転型与多元文化』上海人民出版社 [13-23 頁]
- 2007 「中国古代における説話（故事）の成立とその展開」『史料批判研究』8 [1-57 頁] (後、韓国『中国史研究』52 別冊 2008 所収)
- 2007 「游侠の“儒化”とは何か」『史料批判研究』8 [59-106 頁]
- 2007 「『史記』をどう読むか」『史料批判研究』8 [59-106 頁]
- 2008 「何謂游侠的“儒”化——豪族石碑出現的背景」西安碑林博物館編、趙力光主編『紀年西安碑林九百二十周年華誕國際學術研討會論文集』文物出版社 (2007 「游侠の“儒化”とは何か」の中国語版) [92-126 頁]
- 2008 「南方の守神朱雀の誕生」秋篠宮文仁・西野嘉章編『鳥学大全』(東京大学創立百三十周年紀年特別展示「鳥のビオソフィア——山科コレクションへの誘い」展) [86-111 頁]
- 2008 「先秦兩漢の礼学の変遷——孔子の時代の樂を知るために」『2008 积奠学國際學術會議“文廟积奠의定位과展望”』韓国积奠学会 [157-184 頁]
- 2009 「秦始皇的城市建設設計与其理念基礎」陳平原・王德威・陳学超編、艾英責任編集『西安：都市想象与文化記憶』北京大学出版社 [21-38 頁]

- 2009 「“五服”論の生成と展開」韓国・中国古中世史学会『古中世史研究』21
[205-233 頁]
- 2009 「『論語』の天下観・『孟子』の天下観・『禮記』の天下観——「天下の正
統」とその曆を理解するために」相馬充・谷川清隆編集『第2回「歴史的
記録と現代科学」研究会集録』国立天文台発行 [1-16 頁]
- 2009 「曆與称元法」佐竹靖彦主編『殷周秦漢史学的基本問題』中華書局 [106-
126 頁]
- 2010 「戦国期“封建”論、特別地域論、五服論と孔子——上博楚簡『天子建
州』の成書国を検討するために」『国際积奠学会創立紀年积奠学国際学術
会議論文集——△△孔子△△文廟积奠』[103-124 頁]
- 2010 「上海楚簡『天子建州』と“封建”論」『出土文獻と秦楚文化』5 [109-128
頁]
- 2010 「亀趺が支える宇宙と東アジアの外交」増勤主編『盛世楽章・長安仏教的
多辺交往与融和』長安学術研討会籌備委員会 [302-314 頁]
- 2011 「周初の年代諸説」李紀祥主編『史記与世界漢学論集』唐山出版社（2008
第一屆世界漢学中的『史記』学国際学術研討会論文集、佛光大学人文学院
歴史学系）[235-265 頁]
- 2012 「春秋戦国時代——“原中国”の時代」『NHK スペシャル中国文明の謎』
NHK 出版 [84-89 頁]
- 2012 「中華思想の出現」NHK 中国の謎取材班『中華文明の誕生』[251-258 頁]
- 2012 「関野貞中国調査写真資料に触れて・付記」『関野貞大陸調査と現在』東
京大学東洋文化研究所（人間文化研究機構「日本関連在外資料調査研究事
業——金代日本文化財保護政策關係在外資料の調査と研究」報告書。塩沢
裕仁との共編。同書序文も執筆）[197-199 頁]
- 2013 「関野貞の“支那歴代帝陵の研究”を支えた人々」『法政史学』79（塩沢裕
仁と共著の補遺）[24-26 頁]

- 2013 「関野貞の亀趺碑研究に関する補遺」川勝博士記念論集刊行会『川勝守・賢亮博士古稀記念東方学論集』汲古書院 [3-31 頁]
- 2013 「東アジアにおける二つの“八紘”とその外交——兼ねて亀趺の制度を再論する」『古代中国與東亜世界国際学術研討會論文集』上海 [1-10 頁]
- 2013 「関野貞大陸調査と古写真」東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター報『明日の東洋学』30 [1, 5-7 頁]
- 2013 「骨が語る“中国史”」『Olive——骨退社と生活習慣病の連関』3 [50-51 頁]
- 2013 「战国楚王之自称」羅運環主編『楚簡楚文科与先秦歴史文化国際学術研討會論文集』 [529-541 頁]
- 2014 「補論二題・清朝獅子像の造形的特徴について・亀趺碑亀趺塔研究から見た曲阜孔林の位置づけ」『関野貞大陸調査と現在Ⅱ』『関野貞大陸調査と現在』東京大学東洋文化研究所（人間文化研究機構「日本関連在外資料調査研究事業——金代日本文化財保護政策關係在外資料の調査と研究」報告書。塩沢裕仁との共編。同書序文も執筆） [169-175 頁]
- 2015 「論《漢書》的形式与編纂者班固」『紀念方詩銘先生学術論文集・史林揮塵』上海古籍出版社 [168-175 頁]
- 2015 「里耶秦簡中の曆日について」『中国出土資料研究』19 [131-169, 横7 頁]
- 2015 「序文」日向康三郎『北京・山本照像館——西太后写真と日本人写真師』雄山閣
- 2016 「序文」出土資料と漢字文化研究会編『出土文献と秦楚文化』9
- 2017 「金代山本照像館写真の再検討」東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター報『明日の東洋学』37 [1-6 頁]
- 2017 「古代曆のよき助言者・古川麒一郎先生をしのんで」『日本曆学会』24 [6-7 頁]
- 2017 「序・小倉芳彦〈増淵龍夫与我〉補説」増淵龍夫・呂靜訳『中国古代的社

会与国家』上海古籍出版社 [1-3, 7-8 頁]

2018 「楚国世族の邑管領と呉起変法」谷中信一編『中国出土資料の多角的研究』汲古書院（1982年史学会大会発表内容）[371-395 頁]

2018 「何爲“昶伯者君”」『楚文化与長江中游早期開發國際學術研究討会論文集』武漢大学

2018 「春秋学與日本『左伝』学」国際会議“《春秋学》論壇”提出論文，曲阜

2020 「平勢隆郎春秋戦国『年表』与其後出土の文献」『東洋文化研究所紀要』176 [164-184 頁]

2020 「松丸道雄《殷墟卜辞之中的田獵地——商代国家結構研究序章》对後代研究的影響」『東洋文化研究所紀要』176 [186-192 頁]

2020 「東方文化学院（東京研究所）旧蔵戦国貨幣の金相学的再検討」『東洋文化研究所紀要』177（飯塚義之・王宇祥・鈴木舞と共著）[92-176 頁]

【その他】

書評：江頭廣・先秦官職資料（1986『法制史研究』36），藤田勝久・史記戦国史料の研究（1997『歴史学研究』726），江村治樹・春秋戦国秦漢時代出土文字資料の研究（『東方』），富谷至・木簡竹簡の語る中国古代——書記の文化史（2005『法制史研究』），原宗子・環境から解く古代中国（2009『中国研究月報』63-12），他に「書評に換えて」の文章あり（2010汲古書院刊行本。2006『史料批判研究』7の65-94頁。2010『史料批判研究』9の1-91頁。2014『中国出土資料学会会報』57）

